

地域の課題解決にフォーミュラリ

沖縄北部、流通難・基幹病院の薬選定にも期待

2025/1/21 04:50



北部地区薬・浅沼会長

沖縄県北部地域で昨年12月から、地域フォーミュラリの運用が始まった。地域に医薬品卸の営業所がないことや、医療機関で使用医薬品に差があるという地域課題の解決策として地元薬剤師会が着目。2028年に中核病院の統合で誕生する新病院の採用薬の検討材料にもなり得るとの期待も高まり、三師会が協力して取り組みが加速した。スタチン系脂質異常症治療薬、歯科鎮痛薬、インフルエンザ治療薬の3領域でスタートし、年度内にさらに3領域の追加を目指す。

北部地区の医療圏は名護市と1町7村で構成され、沖縄本島の面積の半分を占める。会員薬局の約8割は名護市に集中し、3村が無薬局地域。県内6地区のうち北部地区のみ以前

から卸の営業所が存在せず、長年医薬品流通の問題に苦慮してきた。北部地区薬剤師会で備蓄センターを運営するなど円滑な提供体制の構築に努めているが限界もある。医療機関ごとに使用医薬品に差があり、薬局の在庫品目が多くなることも課題だった。



やんばる地域フォーミュラリ委員会 設置要綱

「フォーミュラリ委員会」と称する。

沖縄県北部で立ち上がった地域フォーミュラリ

地区薬の浅沼健一会長は、22年の日本薬剤師会学術大会で地域フォーミュラの存在を知り、地域の課題解決に適する

と判断。関係者に導入意義を説明したところ、入退院時に医療機関側の都合で薬が変わることは患者にとって望ましくないとの声があり、導入におおむね賛同を得られた。特に統合する県立北部病院と北部地区医師会病院の関係者からは、両病院の採用薬に差があることから、地域が一丸となって作成したフォーミュラリが存在すれば、新病院の採用薬の選定の参考にもなると歓迎されたという。

●検討委発足3カ月でスタート、三師会の連携が推進力に

24年9月に三師会の正副会長と、県立北部病院と北部地区医師会病院の院長・薬局長などで構成する「やんばる地域フォーミュラリ委員会」が発足。薬剤師会中心の作業部会で案を作成し委員会で承認する流れを構築し、12月には早くも第1弾の導入がスタート。浅沼氏は、地域の三師会の連携が元々強固な地域だったことから合意形成がスムーズに進み、スピード感をもって導入できたと振り返る。

スタチンのフォーミュラリは会員薬局から半年間の使用数量データの提供を受けて検討し、使用の多かったアトルバスタチンカルシウム水和物と、日本フォーミュラリ学会の「モデルフォーミュラリ」にあるロスバスタチンカルシウムの2つを推奨とした。インフルエンザ治療薬では、使用実績の多いオセルタミビルリン酸塩を推奨に位置付けた。

●患者にもフォーミュラリ周知、お薬手帳にPR文貼付

沖縄県北部地区では、医師会
歯科医師会・薬剤師会が中心
になり患者様に良質な薬物療
法を提供することを目的とし
て、最新の科学的なエビデン
スに基づき、医学的薬学的な
観点のほか経済性等も踏まえ
【地域フォーミュラリ】を推
進しております。

“地域フォーミュラリ”とは

こちらから



やんばる地域フォーミュラリ委員会

お薬手帳に貼る案内文

浅沼氏は、導入後も現場の混乱はないとし、年度内に新たに3領域を追加する考えを示した。歯科抗菌薬やPPIなどを検討の俎上に載せる見通し。薬剤師会ではお薬手帳に貼る案内ツールを作成するなど、患者への周知にも力を入れる。

沖縄県薬理事でもある浅沼氏は、県内で同様の課題を抱えている地域は他にもあると指摘。今後の展望として、まずは北部地域での取り組みを軌道に乗せた上で、県内他地域への波及を見据えた。（小泉 壮登）

All documents, images and photographs contained in this site belong to JIHO, Inc.

Use of these documents, images and photographs is strictly prohibited.

Copyright (C) JIHO, Inc.

株式会社じほう

PHARMACY NEWSBREAK 2025年1月21日掲載
[許諾番号20250123_03] 株式会社じほうが記事利用を許諾しています。